おいしい米を食べましょう

上越市農林水産課長　野口和広

Jネットの皆様お変わりありませんか。

恵の秋、稲の刈り取りも終わり秋野菜の成長を楽しんでいた去る十月二十三日の夕方、新潟県中越地方を震源とする地震に見舞われました。中越地方では家屋の倒壊や地滑り等被害は甚大で、被災された皆さんの避難所生活は、心労に寒さも加わり大変厳しいものとなっています。心からお見舞い申し上げます。

私どもの市も震度六弱を観測しましたが、幸いにも被害はほとんど無く、通常の生活を営んでいますが、震源が当市であった場合を考えるとゾーッとします。

さて、今年は例年になく多くの台風が日本に上陸しました。各地に爪あとを残し農作物にも多くの被害をもたらしました。このような状況の中、今年の水稲は新潟県全体では作況指数が九二と昨年に引き続き不作となりましたが、上越地域では九七とほぼ平年作に近い数値となっています。

一方、里山に囲まれた魚沼地方は一〇一と良い結果が出されましたが、このたびの地震で農地に大きな被害があり、来年の作付けがうまくできるか心配しているところです。

「適地適作」この言葉は自然相手の農業に当てはまるもので、頸城平野はご存知のとおり、西は妙高山から南葉山を経て海岸まで、東は関田峠から米山まで緑豊かな山岳、里山に囲まれています。この地形は北西の強風に対する自然の防護壁となり、合わせて保温効果もあります。そして何よりの恵であるミネラルを多く含んだ冷たい水を安定的に供給してくれることから、上越地域では美味しい米を生産できるものです。稲作農家の方々を含め、山の緑の恩恵を受け米を生産できることを改めて意識したいものです。

ところで、日本の米の消費量は、戦後、食生活が欧米化したことにより、年々減少しています。現在では一人当り年間六十kg、金額に換算して約三万円から四万円で、一日当たり一一〇円、食費に占める米代は僅かとなっています。そうした中、私ども米作地帯では米の消費拡大に向け「売れる米づくり」を進めています。ごく身近なところでは、学校給食が週五日のうち三・五食を米飯給食にしています。一般的に給食米は県学校給食会から供給される統一米であり、新潟県産米ではありますがブレンド米で、上越産ではありません。

そこで今年から、地元の認定農業者の皆さんの協力を得て、学校給食米として地元で取れたコシヒカリを低価格で供給して頂くシステムを導入しています。認定農業者の皆さんは、自分たちの作った米で子供たちを育てたいという意識が高く、以前から寄付活動を続けられていましたので、今回のシステムづくりに積極的に参加していただいています。

そして、Jネットからも提言があって来年の四月からは、環境に配慮し学校給食を「無洗米」にして供給いたします。

子どもの頃からご飯を食べる習慣を身に付け、それが今後の米消費の拡大に繋がれば大変嬉しいことです。